Vol.3 2016

日本福祉大学「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)

持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成

COC ニュースレター

ふくし・マイスター

COCデイ　「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ

日本福祉大学は文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択され、「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」を行っています。本学は、全学部で地域を志向した学習を行い、学部の専門性を活かして、地域に貢献できる人材の育成を目ざしています。COCデイでは、本学が目ざす「ふくし社会」のあり方を地域社会と共有し、その実現に向けて学生と地域住民が学びあう場です。美浜町・半田市・東海市に位置する各キャンパスの特色を生かし、それぞれの地域課題に対応したテーマでシンポジウムを開催しました。

美浜キャンパス

子どもの貧困
～地域はどう向き合うのか～

第1部：パネルディスカッション
「知多地域における子どもの貧困への取組」
社会福祉学部の山田壮志郎准教授がコーディネータ、岡多枝子教授がコメンテーターを務め、パネラーの方々を迎えて活発な議論を行いました。

- 一般社団法人アンビシャスネットワーク　田中嵩久 氏
- 社会福祉法人知多学園松籟荘　佐々木仁美 氏
- NPO法人りんりん　下村裕子 氏
- NPO法人子どもたちの生きる力をのばすネットワーク　伊藤八千穂 氏

第2部：パネルディスカッション
「子どもの貧困をどう学ぶか」
子ども発達学部長の山本敏郎教授がコーディネータを務め、会全体を通して学生と地域住民の方200名が参加しました。

半田キャンパス

半田市の景観とまちづくり

第1部：基調講演
椙山女学園大学生活科学部の村上心教授を招いて、半田市の魅力を伝える建築や、景観を生かしたまちづくりについての講演を行いました。

第2部：事例報告とパネルディスカッション
健康科学部長の福田秀志教授のコーディネートのもと、福祉工学科の村井裕樹准教授、毛利志保准教授、3年生の藤沢玲衣さんから事例報告が行われました。後半のパネルディスカッションでは、亀崎地区の景観を考慮したエアコン室外機カバーの制作、空き家再生プロジェクト、アイプラザ半田の活用プランの事例報告を受けて、使う人の視点に立った住環境づくりと景観を生かしたまちづくりが、まちへの愛着につながっていることなどの意見が交わされました。全体を通して、学生と地域住民の方60名が参加しました。

東海キャンパス

まちを使いこなすことから、まちを育む

第1部：事例報告とパネルディスカッション
国際福祉開発学部の吉村輝彦教授のコーディネートのもと、事例報告とパネルディスカッションを通して、地域と大学の協働から生まれた様々な活動を紹介しました。

- 東海市企画政策課　芦原伸幸 氏
- 株式会社まちづくり東海　早川成香 氏
- ちたビジョンプロジェクト　竹内綾 氏
- NPO法人まち・ネット・みんなの広場　加藤龍子 氏
- 国際福祉開発学部4年　高橋康佑さん

第2部：ワークショップ
「太田川駅周辺で何をする!?」
～「こうあって欲しい」から「私たちはこうする」
グループワークと全体発表で課題を共有しました。シンポジウム全体を通して学生と地域住民の方60名が参加しました。

ふくし・マイスター

「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

ふくしとは?

“ふつうのくらしのしあわせ”を意味します。

従来の制度中心の「社会福祉」の枠を広げて、多領域が関連・連携しあう広い意味の福祉を平仮名で「ふくし」と表現しています。

地域での学びをふくしAWARDで発表

本学では、地域志向学習や、国際交流、ICTの活用を通して得られた学びを表現するプレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD」を開催しています。2017年1月24日に行われた第2回ふくしAWARDでは、53件の応募の中から、紙芝居を制作して、知多半島各所で認知症啓発活動を行った社会福祉学部2年生の加藤美咲さんのグループが日本語部門で大賞および学長特別賞を受賞しました。

地（知）のマイスター・地（知）のフィールド制度がスタート！

Education

地域において優れた教育的・研究的資源（知見・知識・経験）を有した人や団体を地（知）のマイスターと地（知）のフィールドとして登録（認定）し、本学の地域連携教育や地域を志向する研究において活躍していただく制度を開始しました。2016年度には地（知）のマイスターは20名、地（知）のフィールドは21団体にご登録いただきました。本学の正課授業・オンデマンド科目等へのゲスト講師としての登壇や、地域連携教育・地域志向の研究でのフィールドワーク先として協力いただくことで、知多半島における人材育成に支援をいただきます。

マイスター 地×知 フィールド

知多市：地域福祉

マイスター

岡本一美さん

長年にわたりNPO法人地域福祉サポートちたにて活躍してきた経験を活かし社会福祉学部の「サービスラーニング」プログラムを担当。知多半島の支え合いの精神と現場の課題を直接学生に伝えています。

東海市：地域活性化

フィールド

株式会社まちづくり東海

㈱まちづくり東海は、東海市が出資するまちづくり会社で、市と連携をしながら中心市街地の活性化に取り組んでいます。この取組の一環として、太田川駅東側の路上を活用したワンデイカフェの運営を星城大学の学生と協働で取り組んでいます。

半田市：地域ケア

マイスター

澤田道さん

半田市社会福祉協議会の職員として、地域包括ケアセンターの所長を務めています。本学卒業生として、オンデマンド科目「知多半島のふくし」のゲスト講師も担当。地域福祉やソーシャルワークの実践についてお話しいただくなど、後進の育成に積極的な貢献をいただいています。

美浜町：障害者福祉

フィールド

NPO法人チャレンジド

NPO法人チャレンジドは、本学卒業生が、美浜町で障害者として生活する際の課題に自ら気づき、ヘルパー派遣事業をスタートさせたことからはじまりました。今では、古民家を活用して放課後等児童デイサービス事業も展開しています。ボランティアの受け入れやヘルパー登録の他、サービスラーニングの受け入れにも協力いただいています。

自治体との協働

Collaboration

美浜町との協働で行う子育て支援の取組として、発達障害児に対する早期支援の充実等の課題解決を図るために「保育現場のコンサルテーション」を町内の保育園で実施しました。

2016年8月23日には、子ども発達学部の笹谷朋世助教が、幼児たちと音楽遊びを行い、グループ活動を通して気になる幼児への対応や指導方法を保育士にアドバイスしました。この取組により、子どもの発達を促すとともに、親が安心して子どもを預けられる環境づくりの一助となりました。

2016年7月27日、知多市と包括連携に関する協定を締結したことを機に、COC事業の連携自治体（美浜町、半田市、東海市）に知多市が加わりました。

NEW

美浜町	半田市	東海市	知多市
少子高齢化に伴う 子育て支援や地域福祉の充実 防災・減災のしくみづくり	中心市街地の地域活性化 地域包括ケアシステムの構築	中心市街地の活性化 多様な地域づくりの 課題に応える地域デザインの構築	地域デザインと人材育成 地域資源を活かした 地域価値の向上

市民研究員・地域課題解決型研究の活動報告

Research

よりよいまちづくり(「ふくし社会」の構築)に寄与することを目的に、連携自治体である美浜町・半田市・東海市・知多市※の地域課題に関わる研究テーマを設定し、課題解決に貢献できる可能性をもつ調査や活動を行う「市民研究員制度」と「地域課題解決型研究支援制度」を2015年度に創設しました。2017年3月5日、2016年度に採択された市民研究員および本学教員が1年間、地域課題の解決に向けた研究活動に取り組んできた成果を報告する場として「2016年度市民研究員・地域課題解決型研究 研究成果合同報告会」を開催しました。 ※包括連携協定の締結を機に、2017年度から知多市を研究対象地域に追加

市民研究員の研究活動実績

2015年度	2016年度
4件	5件

市民研究員の加勢田茂さんは「食と健康」Mini講座を2016年5月26日にCラボ美浜にて開催し、研究テーマである「若い人に食・栄養の重要性を理解してもらうための提言」を実現するため学生の健康に必要な栄養素の重要性を説明し、アンケート調査等の活動への協力を呼びかけました。学生にとっても身近な食の問題であるため、参加者は真剣に話を聞いていました。また、栄養素の重要性を理解してもらうことで、若い人が健康な生活を送ることができる契機となりました。

地域課題解決型研究の研究活動実績

2015年度	2016年度
3件	8件

福祉経営学部(通信教育)の山本克彦准教授は、災害支援経験がある一般社団法人ウェルビー・デザイン理事長の篠原辰二氏を招いて「災害にも強いまちづくりを考える研修会」を、2016年10月4日に美浜町の美浜緑苑で開催しました。参加者同士で防災を考えるワークショップでは、世代が異なる者同士でグループを組み、防災について話し合いました。防災に強いまちづくりにするためにはどうしたら良いか、多世代の様々な視点を取り入れて考える契機となりました。

市民研究員 研究テーマ

- 子育て支援サービス有効利用のためのコーディネートについて
- 若い人に食・栄養の重要性を理解してもらうための提言
- 亀崎の旧家における歴史文化遺産の調査研究と地域活性化
- 半田市における中心市街地観光の大ナゴヤ大学的アプローチ

地域課題解決型研究 研究テーマ

- 半田市「アイプラザ半田」の地域活性化に向けた利活用に関する研究
- 美浜町布土学区を中心とした地域防災活動を普及するための取り組み～災害時要援護者の避難問題に焦点を当てて～
- 知多半島のNPOが有する社会的な価値に関する研究 part-1～NPOスタッフの意識と活動実態に関する調査を通じて～
- 半田市における子どもの貧困対策と居場所づくり～地域におけるさまざまな子どもの居場所のあり方～
- 半田市におけるグループ回想法を用いた介護予防と自主活動形成への支援～アクティビティとしての回想法～
- 東海市における災害に強い街づくりに向けた支援～潜在看護師のマンパワーを活用した災害支援共助システムの構築～
- 美浜町における災害にも強いまちづくりに向けた支援～地域住民の“強み”をつなぐ災害支援共助システムの構築～
- 知多半島内における人口増加に向けた地域づくりの成果と影響に関する研究

半田のまんなかを光で演出～半田運河キャナルナイト～

Partnership

2016年8月19・20日に、半田まんなかプロジェクトが企画するイベント「半田運河キャナルナイト」が初めて開催され、2日間で約6,000人の方にご来場いただきました。来場者は運河の水面にゆらゆらと浮かぶヒカリの玉を見ながら食事をしたり、ほんのりと灯りに照らされた黒壁の道を歩くなど、いつもと違う表情の半田運河の姿に魅了されていました。キャナルナイトの開催にあたっては、子育て支援センターを利用している幼児が行燈づくりに参加したり、半田市・半田市観光協会・半田駅前商店街など、多数の方々が協働しました。また、健康科学部福祉工学科バリアフリーデザイン専修の学生たちは、蔵のまち公園の空間演出を担当し、夜の公園にゆったりとした音楽と幻想的なシャボン玉を溢れさせることで、来場者の心安らぐ空間を演出することができました。

蔵のまち公園への回遊性を高める演出を行う坂口大史助教

知多半島で広がる市民との協働

Partnership

美浜町　イルミネーションのあかりで地域をつなぐ

2016年度冬、美浜町で「MIHAMA ILLUMINATION 2016」が開催され、点灯式には町内外から1,000人もの人が来場して会場の美浜町総合公園体育館は大いに賑わいました。この取組は地域団体や町民、本学職員が実行委員となって実施されており、点灯式では、地元料理の販売や、町民によるクラフト制作のワークショップの他、本学のアカペラサークル、大道芸サークルがステージに立ち、会場を盛り上げました。イルミネーションの灯り(あかり)がまちの多世代の活躍の場となるよう、住民がアイデアを持ち寄り、継続性のあるイベントにしていきたいというのが実行委員会の想いです。

半田市　はんだU22研究所でまちづくりに若い視点を

2014年から隔月で開催されている「知多半田駅前地域円卓会議」で榊原純夫市長と若者たちが「誰もが住みやすいまち」をテーマに話し合ったことをきっかけにして、若者の意見を市政に反映する「はんだU22研究所」が立ち上がりました。現在、いくつかのグループに分かれながら「半田のまちをより良くしたい！」と様々な活動を始めています。

2016年9月8日に開催された、はんだU22研究所によるプレゼンテーションの結果、はんだ市報のページを「はんだU22研究所」のメンバーが担当することになるなど大きな成果がありました。

アドバイザー
日本福祉大学
吉村 輝彦 教授

東海市　あそべる大屋根広場2day's を開催

2016年9月16・17日、太田川駅西側の「大屋根広場」にて、国際福祉開発学部の学生とNPO法人学童保育ざりがにクラブが企画する「あそべる大屋根広場2day's」が開催されました。東海市の支援のもと学生達が人工芝を敷きつめ、学校帰りの学生や子ども達と一緒に、ペットボトルをボウリングのピンに見立てビーチボールなどを蹴って倒す「ボウリングサッカー」や、テニスボールを的の穴に入れる「ボール・イン・ワン」などのミニゲームを楽しみました。「近くで遊べる場所があまりないので、こういうイベントが時々あると嬉しい」とお母さん方の評判も高く、多くの人が楽しく汗を流す新たな賑わいが生まれました。

知多市　ちた未来塾で想いをカタチに

知多市が主催しNPO法人地域福祉サポートちたが運営する「ちた未来塾」では、国際福祉開発学部の吉村輝彦教授が塾長を務めています。この取組は、若者が講座や体験を通して、これからの未来について語り学び合う場となっており、2016年8月4日に開催された第1回「まちをデザインする」では、経済学部4年の臼井諒さんがゲストスピーカーとして登壇しました。知多市に関心のある20代の参加者達からは、「互いに語り合うことで、想いをカタチにするプロセスを学ぶことができた」、「自分がかかわることが、地域への愛着に繋がることが分かった」など多くの意見が寄せられ、若者が地域の未来を考える契機となりました。

日本福祉大学 COC事業推進本部
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6　教育開発課
TEL　0569-87-2214　FAX　0569-87-2273　http://www.n-fukushi.ac.jp/coc

文部科学省 地(知)の拠点